

「 確かな学力の定着・向上を目指した授業改善の工夫 」
～ 「やまなしスタンダード」の定着を目指して ～

I 研究の内容

1 本年度の研究の重点

学ぶことと社会とのつながりをより意識した教育を行い、子供たちがそうした教育のプロセスを通じて、基礎的な知識・技能を習得するとともに、実社会や実生活の中でそれらを活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、学びの成果等を表現し、さらに実践に生かしていけるようにすることが大切だと考えます。そのために必要な力を子供たちに育むためには、「何を教えるか」という知識の質や量の改善はもちろんのこと、「どのように学ぶか」という学びの質や深まりを重視することが必要であり、課題の発見と解決に向けて主体的な学び・対話的で深い学びについて、その指導法等を充実させていく必要があります。

また、「新やまなし教育振興プラン」や「県教育指導重点」「市教育指導重点」等から見えてくるものは「確かな学力の定着・向上を目指した日常的継続的な取り組み、授業改善の工夫」の必要性です。したがって、平成28年度山梨県教育指導重点の中に示されている「やまなしスタンダード」授業づくり7つの視点をもとに、日々の授業の在り方や家庭学習の取り組みなど重点的に取り組んでいきます。

2 研究部会

(1) 教科研究部会

- ・ 「確かな学力の向上」を目指した授業づくり・授業改善
- ・ 「やまなしスタンダード」を取り入れた授業づくり・授業改善
- ・ 全国学力学習状況調査や県学力把握調査など分析と対策をもとに授業改善

(2) 学年別研究会

- ・ よりよい学級・学年集団づくり
- ・ Q-U検査の分析 → 個への対応，集団づくり
- ・ 家庭学習の定着を図る「自主学習ノート」の取り組み
- ・ 「自学の時間」の有効的な活用

(3) 授業研究

- ◇国語科 1年2組 10月19日(水)実施
「言葉の研究レポートを書こう」 授業者 奥山彩佳 教諭
- ◇理科 1年1組 11月9日(水)実施
「物質のすがた」 授業者 窪田勇治 教諭
- ◇保健体育科 1年3・4組女子 12月7日(水)実施
「ダンス～現代的なリズムのダンス～」 授業者 小沢隆広 教諭

(4) 学習会

- ◇「Q-U分析とK13法」 6月22日(水)実施
講師：山梨市立山梨南中学校 平井成二 先生
- ◇「デジタル教科書ICT機器の活用法」 6月29日(水)実施
講師：山梨県総合教育センター情報教育部 齊藤和弘 先生
- ◇「やまなしスタンダードの確実な実行にむけて」 7月6日(水)実施
講師：山梨県教育庁義務教育課 中島浩三 先生
- ◇「発達障害の理解と対応」
～事例を通して考える実態把握と具体的な対応～ 9月21日(水)実施
講師：山梨県立かえで支援学校 飯嶋多三恵 先生

II 成果と課題

1 成果

県が示す「やまなしスタンダード」を意識しながら、授業改善を図ろうと全校体制で取り組むことを考えると、研究主題および副主題は適当だった。

研究主題のもと、3本の授業研究を実施し、「やまなしスタンダード7つの視点」や「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」という全職員が同じ視点で授業を参観し、研究会を行った。「全職員で参観し学び合う場」「自分が感じたこと、思ったことを互いに交換し合う」といったアクティブな研究を展開し、共有する良い機会となった。

学習会については、ICT活用や特別支援教育などに関するものをはじめ、現場における様々課題について、外部から講師を招き有意義な学習機会を設けることができた。

2 課題

- ・全体研究については、「チーム南中」としてみんなで同じ方向を向いて、研究主題のもと研究や学習を積むことはできたが、小部会(教科別、学年別)については十分にその環境を整えることができなかった。
- ・家庭学習について、質の向上や授業との有機的な結びつきなど内容について、今後研究が必要である。
- ・次期学習指導要領改訂にむけて、次年度以降校内研究の中で準備を進める。
- ・確かな学力の定着・向上を目指すためには、授業改善をさらに積極的に試みていく姿勢が必要である。
- ・多忙な中であって、すべてを網羅し、実践していくことは大変なことであるが、「できること・やれること」から1つ1つ積み上げていくことが大切である。

III 成果物

- ・学習指導案(1年国語・理科・保健体育)

(研究主任 立川慶樹)